

平成27年度 第3回 池田市総合教育会議 議事録

日時：平成28年1月19日（火）午後4時～午後5時

会場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：倉田市長、山岸教育委員長、河野教育委員長職務代理者、藤田委員、小林委員、村田教育長

<事務局>

玉手副市長 総合政策部 三好 政策推進課 斎藤、楠田、山田

教育部 阪本、齋藤 教育政策課 鈴木 教職員課 西山 学校教育推進課 荒河

教育センター 阪 生涯学習推進課 田上 中央公民館 柴口

管理部 藤田、亀井 総務・学務課 藤井 保健給食課 塩山

傍聴者：1名

議 事

1. 教育に関する新年度予算について

- ・村田教育長より、事務局案の概要説明。
- ・事務局より、5つの事業について説明。

①小・中学校指導者派遣事業

習熟度別指導や、各学校が特に力を入れたい分野（珠算や英語）の指導に教員や専門家を派遣する。

②いじめ・不登校問題対策事業

小中学校へ「いじめ・不登校対応支援員」を派遣し、教員の子ども・保護者対応を支援する。現在週2～3日で1日6時間派遣しているところを、週4日、1日7時間に拡充。

③細河地域学習教室事業・地域学習教室事業

学習塾に委託して細河地域にも「地域学習教室」を開設し、細郷中学生の学力向上を図る。現在は中学3年生を対象としているが、全学年に拡大。

④ほそごう学園児童放課後学習教室

ほそごう学園に「珠算」と「英会話」の、小学生放課後学習教室を開設する。

⑤市立幼稚園通級指導教室の開設

市費教員の加配により、幼稚園に「通級指導教室」を開設し、要配慮児保育の支援にあたる。

<市 長>

- ・塾との連携やプロポーザルなど、相当踏み込んで考えている。
- ・説明にはなかったが、ほそごう学園で特色ある教育を行うことで池田市全体から通学できる特認校、前に申し上げた校区フリーについても考えてくれているようだ。
- ・しかし塾との連携で、ほそごう学園は無料で塾に行けるのかという財政的な指摘もあるかと思う。先生方のご意見、ご質問をお願いします。

<教育委員>

- ・小・中学校指導者派遣事業の学力向上、珠算、英会話が目玉になると思う。市長のおっしゃっていた「教育日本一」とマッチする。
- ・ほそごう学園を魅力的な学校にして校区を廃止し、池田市中から子どもたちを呼び込むのはいいと思う。ただ、他の学校とのバランスを考える必要がある。しかし誰でも行ける機会を作れば、特色ある学校を売り込むのはいいことだと思う。
- ・珠算や英会話を小学校からやるのはいいこと。学力の基本となる。

<教育委員>

- ・まず、小・中学校指導者派遣事業の10人雇用というのは、長期の雇用を想定しているのか。そうすると毎年お金がかかる。それとも、時限的な雇用か。人員配置は、各校に1人か、1校に2、3人置くことも可能なのか。働く人は長期を希望するはずだが、どのように募集するのか。
- ・いじめ・不登校問題対策事業で、支援員の資格、具体的な支援内容はどのようなものか。時給900円で求められる人材とはどのような人か、本当に集まるのか。
- ・池田市全体の学力底上げか、特色ある学校を作り上げるのか、池田市のどこをクローズアップするのか考える必要がある。初めての小中一貫校であるほそごう学園に事業を集約させるのも1つの方法だと思う。

<事務局>

- ・1人ずつ配置するという想定ではなく、2人必要であればそれもありだと考えている。
- ・雇用について可能かどうかは分からないが、ある時期だけ、たとえば2学期の1ヶ月間ということにも応じたい。

<教育委員>

- ・小・中学校指導者派遣事業は学力の底上げ、ほそごう学園児童放課後学習教室はトップの引き上げだと思われるが、事業の意図が知りたい。
- ・現在の課題の大きさを考えなければいけない。学力の底上げの課題がそこまで深刻でないならば、ほそごう学園を目立たせて公立の私立学校を作るようなイメージは面白いと思う。そのときに考えるべきなのは、機会の均等と財政的な問題。しかし課題が重いのであれば、まずは小・中学校指導者派遣事業に取り組むべきだと思う。

<教育委員>

- ・「教育日本一」というのは、池田市に住めば日本一なのか、ほそごう学園に入れば日本一なのか。特色のある教育は私学に求め、ほそごう学園への特化はほどほどでいいと思う。池田市に住めばどの学校に行ってもしっかりとした教育が受けられるように、底上げに力を入れてほしい。英語や珠算を各校に浸透させた方がよいと思う。
- ・中学でいじめや不登校が多いと感じた。家庭訪問にも力を入れるべき。

<市長>

- ・ほそごう学園に特化するか、池田市全体を底上げするか、二兎を追うべきだと思う。
- ・説明責任を果たす。ほそごう学園はよくて、石橋小・中学校は損となつてはいけない。
- ・池田市の精神を見せ、公立の私立校とまではいかななくても、ほそごう学園に特色をもたせたい。
- ・教育長、総括をお願いします。

<教育長>

- ・学校長から「この課題に対して増員してほしい」という現場の声を聞き、教育委員会で協議していく。
- ・英語や珠算など、各校が自発的に特色のある取組みをし、地域も応援してくれるようになればいいと思う。
- ・学園構想を大事にしつつ、各校の特色を出しながら派遣事業ができれば、現場は生き生きすると思う。

2. 教育に関する大綱等について

- ・事務局より、大綱について説明。
- ・事務局より、大綱の案について説明。

<市長>

- ・現行の計画にとらわれず、新制度に合わせて新たに策定するべきだと思う。大きな目標に向けてさらに努力するという、教育委員会の決意を表す。
- ・PTAなどの意見を聞きながら中身を見直し切磋琢磨してほしい。

<教育委員>

- ・今までの教育はあるが、1から見直して考えてほしい。「日本一」を入れることができればよいが。

<教育委員>

- ・人口減少や貧富の差など急速に時代が変わる中で、もう一度見直して教育について考えるべきだと思う。少子化や貧困問題に直面しながら効率的に子ども達を引き上げる必要がある。時代に即したものを策定する。

<教育委員>

- ・教育の形は明治5年にできたが、100年経っても変わるべきものではない。コアの部分を変えず、時代が変わっても対応していく力が教育であると思う。学ぶ楽しさ、意欲を失わせないという教育の原点を忘れず、グローバル、人権、情報化などを学び、変動に対応する力を身につけてほしい。大綱は既存の計画のコアの部分を全面に出すべき。

<教育委員>

- ・教育ビジョンは平成 24 年から 35 年について定めている。教育大綱は教育の基本的なことについて、抽象的な記載をするものと理解している。日本一の施策の中身は書かず、長期間耐えうる内容であるべき。教育ビジョンの理念を元にするのがよいと思う。
- ・細かいところは市長と教育委員会で協議しながら新しいことを行い、それとは分けて大綱を策定する。

<市 長>

- ・教育は 100 年以上連綿と続くもの。コアはそう簡単に変わるわけではない。社会の変化に対応する力をつけるための原点を大綱で示す。そこで具体的なことよりも理念を明確にする。せつかくなので、高邁な理想をあげてほしい。

<教育長>

- ・グローバル社会の中でどのような人を育てるのか。きちんとした考えをもてる力を、公教育でどれだけ作れるか。そういう意味で、基本的な教育の理念を打ち出してくれればと思う。新たな角度から検討を進めなければならない。

<市 長>

- ・不動の教育理念を打ち出して、案を再度精査してほしい。

3. その他

<市 長>

- ・先ほどお話のあった中学校の不登校について、平成 26 年度は 69 人とのことだが、平成 27 年度の現時点での数値は。

<事務局>

- ・概ね前年度と同じ傾向である。

<市 長>

- ・訪問が大事だが、なかなか手が回らないという実態がある。各校長がそれぞれの学校の課題を抽出し、教育委員会がそれにこたえるための予算、人員を回せばいいと思う。
- ・ある中学で、不登校ゼロということがあったのはカウント方法のテクニックか。

<教育長>

- ・学校の取り組み方で変わる。いろんな見方があり、分析が十分ではない。不登校の子どもの問題は多様化しており、親との関わりを十分に進めていかなければならないが、繰り返し訪問することは負担がかかる。

<市 長>

- ・もしも 10 小学校、中学校で不登校・引きこもりが 0 人になれば、日本一と言えるか。

<教育長>

- ・日本一だと思う。

<市 長>

- ・10 万都市で不登校ゼロというのが難しいほど、問題は深刻ということか。

<事務局>

- ・平成 16 年から不登校児が増えたため、「不登校半減計画」を立てその中でスマイルファクトリーとの連携や校内の適応教室といった施策を行った。これにより何人かは復帰できたと思う。

<市 長>

- ・スマイルファクトリーに通っている子どもは不登校にカウントしているのか。

<事務局>

- ・不登校調査においてはカウントしている。

<市 長>

- ・市長が財政改革を行って予算を教育や子育てにまわし、先生や教育委員会が不登校に立ち向かう。
- ・二兎を追い、学力の底上げと引き上げを行う。習熟度別や塾との連携事業を考えてもらった。
- ・次の課題は、ほそごう学園に特化するのかどうかということ。全体の底上げを行い、とりわけほそごう学園に特色をもたせる。校長がいい意味で切磋琢磨できればと思う。
- ・予算が確定するまでもう 1、2 回開催し、先生方のご意見をうかがいたい。

3. 閉会

- ・次回は 1 月 25 日（月）に開催を予定。